

10 本学における出前講義の効果と今後の課題 —新潟市内某小学校での取り組み—

計良倫子, 本間和代, 天池千嘉子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 出前講義, 小学校, 効果

はじめに

本学では、歯科技工士・歯科衛生士の職業および歯科医療への理解を深め、将来の進路選択や職業選択の一助とするために出前講義を実施している。講義依頼は、小学校・中学校・高等学校にとどまらず、保育園や地域施設など多岐にわたっており、歯科への関心の高さが伺える。今回、新潟市内某小学校2校にて実施した出前講義に対する児童たちの感想を基に、実施した効果および今後の講義の内容等を検討した。

対象および方法

対象：新潟市内Y小学校61名（4年29名，6年32名）およびN小学校266名（1年74名，2年63名，3年76名，4年53名）計327名

方法：出前講義終了後に、各小学校より寄せられた児童たちの感想の中から、特有のキーワードを抽出した。

結果および考察

1. Y小学校

4年生の感想では「歯磨きをがんばりたい」が最も多く20.0%，次いで「自分のプラーク付着部位がわかった」が17.1%であった。6年生では「歯磨きをがんばりたい」が最も多く31.7%，次いで「歯周病についてわかった」が17.5%であった。どちらの学年も、将来にむけて口腔内の健康を保つことの重要性を理解し、口腔内への関心を持つことにつながったものと考えられる。

2. N小学校

1年生の感想では「汚れのつきやすいところがあった」が27.9%で最も多く、次いで「歯の磨き方が分かった」が27.1%であった。2年生では「歯の

磨き方がわかった」が27.2%で最も多く、次いで「噛むことの大切さがわかった」が25.2%であった。3年生では「歯磨きをがんばりたい」が20.1%で最も多く、次いで「COについてわかった」が14.6%であった。4年生では「歯の磨き方がわかった」が21.2%と最も多く、次いで歯肉炎・歯周炎についてわかった」が20.0%であった。講義内容が、講話と実技指導であることから、どの学年においてもブラッシングについての感想が挙げたものと思われる。

Y小学校では、テーマをひとつに定めずに講話を行った。そのため、児童たちの感想が様々な分野に及んだと考えられる。しかし、N小学校では、学年ごとに異なるテーマで講話を行った。その結果、各学年ともに、講話内容についての感想が多く見られたものと考えられる。小学生の口腔内は、学年ごとに注目する点が異なる。それぞれに合わせた内容の講話を行うことで、児童たちそれぞれが、自分の口腔内の問題点や変化に気づききっかけとなるのではないかと考える。また、少数ではあるが「歯科医院で働きたい」「歯を研究する人になりたい」という感想を述べた児童もあり、将来の職業選択肢の中に、歯科医療従事者が含まれたことは効果の1つと考える。

今後は、多くの内容を含むよりも、それぞれの年齢に合わせたテーマを定め、興味を抱きやすく理解しやすい内容の講話を組み立てていくことが必要であると考えられる。また、多くの児童がブラッシング指導について述べていることから、実技指導も含めた出前講義を継続していくことが重要であると思われる。

まとめ

出前講義を実施したことで、児童たちは歯および口腔について興味を抱くことができた。学年に合わせたテーマでの講話の実施は、内容を深く理解することにつながった。